



末尾ながら自動車部OBの方々のますますのご発展と、ご健康をお祈りもうしあげます。

各地でのOB会

自動車部に在籍したOBが卒業後部室や車庫に顔を出すことはしばしばあるが、OB会と組織だって集まったのはいつ頃からだろう。

昭和二十年代については記録がないが、昭和三十六年三月、流星号がスクラップ化されるという話から、追善供養と称してOBなど二十数名が集まり、前述の記念撮影後近くの料亭で会食した記録がある。その会場でOB会結成の話がでたものの、立ち消え状態になり、昭和三十七年頃大阪で川崎（32）氏を中心に数名が集まったこともあったがOB会と呼べるかどうか。

第一回OB会総会

OB会が正式に会則まで用意して発会したのは昭和四十二年一月十四日、自動車部の部室で開かれた第一回OB会総会？からである。出席者は次の通り。（敬称略）

越出（22）、川崎（32）、松吉（32）、木村（36）、犬塚（38）と現役部員。

実は、この前年昭和四十一年十二月にはOB会関西支部がひと足早く第一声をあげており、本部より支部がさきに出て来るといふ珍しいケースであった。

関西支部OB会

関西支部OB会は野口 氏（38）の働きかけで昭和四十一年十二月十一日大阪で初会合を開いた。

会には九名のOBが参加し、支部長に田中 先輩（23）幹事に野口氏を選出し今後の発展を祈念して乾杯した。その他の参加者は次の通り。（敬称略）

谷 （23）、佐武 （28）、嘉村 （33）、山田 （37）、吉武 （39）、中原 （39）、橘 （40）

近況連絡Ⅱ別所（25）、河相（31）、林田（33）、門司（37）

そのご現役の自動車部には、OB担当の幹事も置かれ、のちには徳尾モーターズに九州に帰省するOBたちが立ち寄って、餅つきをしたりという活動はあったが、会としての正式な記録はなく全国的規模のOB会としての機能は果せず低調な年月が続く。

東京地区でOB会復活

OB会として再び動きが活発になったのは東京地区からである。東京近辺は九州についてOBの多い地区である。その中で平成に入り門司 （37）氏が「同じ釜のメシを食ったOB」に呼びかけOB会を開いた。限定的ながら東京地区第一回OB会である。この話を聞きつけた川崎 氏（32）が、俺たちも入れろ、と合同で開いたのが平成六年一月、鳳龍クラブでOB会で下段の写真である。

第一回九州一周のメンバーを集めて

平成九年五月、岡山在住の嘉村OB（33）の呼びかけで「九州一周あの感激



平成6年 鳳龍クラブにて

を再び」と名付けた第一回九州一周のメンバーを中心とするOB会が企画された。

東京地区世話役の川崎氏(32)のアドバイスで「門司グループ」にも声をかけ、総勢十五名が岡山駅前集合した。なかには四十年ぶりという顔ぶれもいた。マイクロバスで瀬戸大橋、高松栗林公園を見学し、安光氏(32)のお世話で姫路近辺の新舞子に一泊、その夜は九州一周の思い出を語り明かし、翌日は姫路城を一同で散策して、名残を惜しみながら解散した。参加者は次の通り。(敬称略)

渡辺(30)、藏満(31)、安光(32)、川崎(32)、斉藤(33)、

小堀(33)、中村(〃)、原田(〃)、古屋(〃)、林田(33)、

進藤(35)、本多(35)、木村(36)、野口(38)。

嘉村(33)

なお、山口氏(35)は、参加予定であつたが教え子(氏は熊大の教授)の結婚式が急に入つて、残念ながら欠席となつた。氏の欠席を聞いて「他のOBはどうでもいいのに……」と冗談とも本気ともいえないぼやきが聞こえていた。

東京地区OB座談会

部史の編纂が始まると、各地での座談会が開かれた。最初は平成十年四月十八日、東京の鳳龍クラブで元いすゞ自動車業務の伊藤先輩(7)、元自動車部部長、新莊教授(9)にもご参席いただきいろいろ貴重なお話をうかがつたが、当日は明専会東京支部会のあとの僅かな時間を利用していただいたので、おもに伊藤先輩から明専OBと自動車産業との関わり合いについてうかがい、また新莊先生から同好会などについてや、戦後まもなくの自動車部についてうかがつたところで時間切れとなつた。座談会のあと数人が食事をしながら昔話などをしたが、川崎氏にお願いして東京地区はもう一回OB会を開いて



H9年 姫路城にて

らうことにした。

この第一回の座談会の伊藤先輩、新莊教授のほかの出席者は次の通り。(敬称略)

松田(26)、川崎(32)、池田(33)、中村(11)、
進藤(35)、門司(37) 嘉村(33)

中部地区OB座談会

続いて、名古屋を中心とするOBによる座談会が六月六日名古屋駅前の名古屋グランドホテルで行われた。中部地区は名古屋のJ.R関連会社「セントラルメンテナンス」の会長、廣田先輩に会場の設定その他でお世話になった。当日は川崎氏も東京地区からはるばるの参加で当時の自動車部の思い出話を盛り上げてくれた。

部史編纂に当たり、数多くのOBから手記や、お便りをいただき、また一部の先輩から対談の形でお話いただいたが、そのほか座談会席上で初めて明らかになったエピソードなどを紹介したい。参加者は次の通り。(敬称略)

中野(25)、城(29)、山田(29)、廣田(29)、渡辺(30) 原田(33)、西(50)
地区外参加 川崎(32)、嘉村(33)

座談会語録

①「新莊先生の前の自動車部長は誰だったかな。」「岩城先生じゃなかったかな。」「片岡先生は十九年八月におやめになってるし、岩城先生は確か戦後の赴任だから、片岡先生と、岩城先生の間をどなたが自動車部のめんどろを見て



§10.4 鳳龍クラブにて

いたのかわかりませんね。」

②「蒼竜は機械科所属で借りるのに手続きが煩わしかったそうだが」「(中野先輩の頃は)わりあい自由に使っていたが」「蒼竜、彗星がプレートナンバーをもらったのが昭和二十三、四年頃でそれまでは用があるときに赤線入りの仮ナンバーをつけてはしっていたようですね。」「古い写真を見ると紀田先輩(23)が写っている彗星はたしかに臨時ナンバーだが、蒼竜は(FUKUOKA3,274)の正規のナンバーがついている。蒼竜のほうがナンバー取得は幾分早かったようだ。」

③「ケツチンを良く喰らったが、あのケツチンとは何語かなア」「さあ、何語でしょうね、馬から蹴られた、キツキングの訛という説もありますが?」「スターティングハンドルが無くなったのはトヨタクラウンの60年型からです。」

④「自動車部はよく引越の手伝いをしたが、厚生課のメツチエンいわく『自動車部はメカに強い上に商売が上手』といった。」

⑤「炭鉱が閉鎖になって今で言うリストラにあつたが再就職にそなえて社員に運転を教えてくれということになったものの職場がまたかわつて練習車を段取りしただけであとは知らない。もう少しで教習所の教官をするところだった。」

⑥「車庫が古くなって大風が吹くと板壁の下部が外れてガタガタしていたが。」「あれは文部省から車庫修理の予算をとるため壊れを大きくしたという噂も聞いたが。」

⑦「二十九年頃にホンダベンリーというオートバイのキャンペーンがあつて自動車部の部員がアルバイトにかり出され、ベンリーの旗をなびかせて小倉市内などを走った記憶がある。」

⑧「彗星は、軍用車で二トン車だったが板スプリング二枚をいれ補強して四トンの検査証をもらった。」

「荷台を短くしたのもその時かな」「あれは荷台がぼろぼろになったとき丸太



H10.6 名古屋での座談会,OB会

から木を挽いて作り直したときだろう。」

⑨「部車のクラウンのドアが壊れてハリガネでくくって走っているとき、曲がるのに方向指示器（アポロタイプ）が出てないといって警官に呼び止められた。ハリガネをずらして出して見せた。」

⑩「まだマイカーがが少ない頃、転勤を車で移動して、請求は国鉄（JR）で行ったことにするとずいぶん旅費がもらえ差額が馬鹿にならなかった。」

⑪「新莊先生のお話にもあったブリッジストンからタイヤをいただいた時の恩人、明専のOBのお嬢さんと結婚したのがいすゞに行った『K』さんだった。」

⑫「当時はバッテリーは性能が悪く、アルバイトや練習のあとには必ず、重たいバッテリーをはずして変電所の充電器の前までエッチラ、オッチラ運んだものだ。」

九州地区OB会座談会（三十五年卒以上）

九州は自動車部OBが一番多く全員が集まっても時間的な問題と、年次が違いすぎては会話がうまくみ合わないのではないかとの配慮から、九州のOB会は二分割して行うことにした。

その第一回は平成十年八月一日、福岡市天神の福新楼で行った。

福岡は喜多村会長のお膝元で、また座談会その他で会長と石飛先輩に大変お世話になった。

座談会も盛況で十四名のOBが参集した。参加者は次の通り。（敬称略）

平位（20）、喜多村（21）、上妻（22）、石飛（22）、真那子（24）、松尾（25）、後藤哲二（26）、塚田（26）、川崎（26）、後藤（28）、前田（32）、斉藤（33）、山口（高間）、地区外嘉村（33）

座談会記録

①「流星の名付け親は私たち(二十一年卒業)です。」

②「終戦の少し前、軍用トラックで軍需物資を運んだが、なかでも「突貫**」(ゴム製避妊具)を貨車いっぱい運んだ事は今でも印象に残っている。」

③「運転免許の試験車のアクセルペダルがエンジンの熱で焼けていて、ハダシの足に熱くてたまらなかったことが今でも思い出される。ハンドルが前の受験者のアセでベタベタしていた。」

④「免許試験のうち学科試験はベニヤ板を渡され、地面に座ってその板の上で答案を書いた。」

⑤「学長車(ダットサン)の女性の運転手が休んだのでかわりに運転した。得意満面であった。」

⑥「食堂のアルバイトなど力仕事のあと、ついたての蔭で自動車部だけの特製カレーを食べさせてくれた。普通の寮生は団子汁と千切りダイコンだけのときに。」

「僕らの時は普通の二倍ほどある特製のおにぎりだった。海苔も大きなやつで。」

⑦「八幡にワタカツというパーツ屋があつて自動車部のK君が通いつめてついにワイフという大物パーツを手に入れた。」

⑧「学園祭で日産の新車(ダットサントラック)を展示したことがあった。朝早くこっそり新車のエンジンをかけて前後に動かしたことがあった。(ないしょ)」

⑨「免許試験の実地試験でのこと、背が低いので前がみえず、座布団を用意していったのは良いが、今度は足がクラッチに届かず、座布団を背中当てて、中腰



H10. 8 福岡市内九州地区座談会

で運転した。」

⑩「彗星のシートを洋裁の経験もあまりないまま、仕上げたが意外と上出来でみんなに褒められた。」

⑫「関門トンネルの中を走行中、燃料ポンプが故障したことがあった。昔の自動車部時代を思い出しポンプにワイヤーを結んで何とか出口までたどり着くことが出来た。」

関西地区OB会座談会

関西地区第一回OB会からなんと三十三年ぶりにOBが大阪に集まった。

久保田 氏の骨折りで、平成十年十一月十五日、大阪の「一等地、梅田ヒルトンプラザ内」にし家庵」で行った。出席者は次の通り。(敬称略)

立松(22)、舩谷(23)、安光(32)、久保田(33)、中原(39)、橘(40)

地区外 嘉村(33) 余談ながら集まった中で三人までが鉄鋼メーカーに関連。

座談会記録

①「父親がバス会社に勤務していたので車には親しんだほうだ。」

②「学校では朝礼場に縄でコースをひいて練習したが、なんと試験場も縄で張ったコースだった。」

③「エンジンをばらして、又組み立てたら、バルブリフターが残った。」

④「デフを組み立てたら組み方が逆で、後進三段、前進一段になった。」

⑤「彗星号が大門の陸橋を過ぎて日明に向けて坂を下ったところでハンドルのトラブルから電車道に飛び込んで電車をかなりの時間、立ち往生させた。日本人はしらぬ顔で通り過ぎたが米軍のトラックがウインチで引き揚げてくれた。」

⑥先生の引越で熊本まで行ったときメタル合わせを大急ぎでして、行きがけは慎重に運転したが、帰りはもうなじんだだろうとつい油断をしたら焼き付いてしまった。一日しか持たなかった。」

⑦「アルバイトは人気があって予定表の黒板に引越があるとすぐ誰かが名前を登録していた。運賃は自動車部の収入になったが、引越に行くと祝儀がでたり、ものをくれたりで。」

⑧「第一回九州一周でのこと、車から降りて運転席に行くと、運転手と真ん中の部員はまだいびきをかいて寝ていた。Kくんが一番下（左側）にいてうんうん言っていた。」

⑨「免許試験のとき、試験車のウインカーがハンドルを戻すと自動的にオフになるのがすごく斬新に感じた。当時、試験料は八百円、流星の練習は十五分四十円だったと思う。」

⑩「大阪でのOB会の会場はセドリックと言う喫茶店だったとおもうが『そのあと京都に向けてドライブした?』」

東京地区OB会（平成十一年）

平成十年四月の前の座談会が集まりが悪く、収録の内容も今ひとつの感があったので川崎氏にお願いして早めに段取りをしたところ、二十七名の盛会となった。今回も新莊教授のご来席をいただいた。お年とは思えないお元気なお姿である。写真は平成十一年二月二十日、東京鳳龍クラブでの記念撮影である。

出席者は次の通り。（敬称略）



遠征隊員を歓迎するOB S42.4 京都

座談会記録

新莊(9)、松田(26)、山田(29)、廣田(29)、中島(30)笠原(32)、川崎(32)、丸山(〃)
池田(33)、小堀(〃)、中村(〃)、古屋(〃)、松吉(33)、木村(36)、門司(37)、砂本(39)、
宮崎(〃)、横田(〃)、八木(45)、谷口(H1)、福田(H3)、公山(H4)、川口(H6)、小野(H7)
小西(H8)、渡辺(〃)、地区外参加 嘉村(33)、

①「ラリー競技車を転倒して壊したので、時間と労力を費やしてやっと仕上げたら、二戦めでまたクラッシュした。辛く悲しい思い出です。」

②「工大ラリーのとき、テントが風をはらんで飛びそうになり必死で押さえたことがある。」

③「自動車整備大会の全国大会に参加したことがあった。その後次第に整備に力を入れることもなくなった。」

④「工大祭のテントなどを運ぶことで責善会の予算をкаろうじて確保していた。いつも存続の問題がでていた。」

⑤「日産ジュニアが引越などで随分稼いだ。(あまり大きい声ではいえないが。)」

⑥「中国、南紀遠征のときだったか、日産提供のセドリックがエンストして、バックでしか押し掛けできなくて、京都の町の真ん中で、エンストなどすると、後部座席の部員が急いで降りて後続車をとめて、バックでかけた。」

⑦「二年生になってすぐ、免許試験を受けたらなぜか合格した。すぐに幹



H11.2 東京、鳳龍クラブにて

事になれと言われて、部室に入らされた。」

⑧「西日本学生連盟が数年経ったとき、全日本学生連盟からクレームが付いた。「西日本」のメンバーを全員加入させるなら「西日本」を解散すると言って認めさせた。」

⑨「彗星号で八幡方面の引越のアルバイトにいったとき、サイドブレーキが甘かったのか、階段のそばに止めてあった彗星が勝手に階段をおり始めた。気が付いたときはもうどうしようもなく、一段一段ゆっくり降りて行くのをただ呆然と見ていた。いったん平らなところへ出た時、どういう訳かハンドルが切れて、市営住宅に運転台の途中まで突っ込んで停まった。上も下も階段のところでレッカー車で苦勞して降ろしかけたが、うまくいかず、決死の覚悟で運転台に一人乗ってブレーキを踏みながら脱出した。生きた心地はしなかった。」

⑩「車検の時にキングピンが甘いと通らないので、試験官に気づかれるギリギリのところで、ピンをたたきこんだ。それでも、次第にガタがくると真つ赤に焼いてハウジングを絞って対処した。シャシーも鋲止めで、鋲にゆるみがあるとリベットハンマーどころか大ハンマーで鋲締めをした。腹はずいぶんへつたが、材料力学の点はよかった。」

⑪「免許試験に合格すると指紋をとられた。試験場から合格通知が交番に来ると呼び出しがある。事実上の合格通知で、前科、交通違反歴などを調べたあと、指紋を採られた。合格するとゼンザイを振る舞わなければならないきまりであった。」

⑫「二十八年から学長の運転手(女性)が休みがちだったので自動車部は無償ながら運転をまかされていた。」

⑬「学長が専用車が欲しいと言うことで日産からダットサンスリフトを都合してもらった。学長は博多から戸畑駅まできて、学校までの間、学長車を使用していた。」

⑭「門司から蒼竜で学校へ帰る途中、延命寺の停留所で電車に追突した。ショックはさほどなく、乗客も気が付かなかったが、車掌は『うん?』と顔を出した。ラジエターがいかれた。」

⑮「なくなった松吉　さんが我々の中で一番早くマイカーを持ったと思うが、私はフロントドライブが気に入って、北九州にいたときはホンダN360に乗っていた。雪の日足立山の麓でタクシーがスリップで立ち往生していても、フロントドライ

ブはすすい走った。その後、軽を卒業後は、ずっとスバルをレオーネ、レガシイと乗り継いでいる。」

⑯「第一回九州一周のとき、熊本県内で横転事故があった。その一号車の荷台に寝ていてあわてて飛び起きたが、しばらくしてスプリングコート（父が大切にしていたもので、防寒用にと持たせてくれたもの）のあちこちに穴があいているのに気が付いた。荷台にのせてあった、バッテリーの希硫酸液がコートに付いておシヤカにしたものだった。バッテリーは燃費測定のためのドラム缶（ガソリン）にゲージを差し込んで計測するときの、夜間ランプ用電源として積み込んだもの。今考えるととんでもない危険と隣り合わせ！」

⑰「一年の最後の春、どうせ一度で通るわけではない、試験慣れのため落ちてもともとで受験してこいといわれ、受けたところ、いっぺんで通ってしまい、学科の準備が出来てなく、魚町（小倉北区）の書店に飛び込んで一番薄い問題集を買って一夜漬けならぬ、一時間漬けで何とか免許をもらった。」

⑱「第一回、第二回と九州一周に参加しとき、第二回には工科の学生らしい事をしようと、運転前後の体温上昇を測定したが、学校に帰ったとき、A新聞の記者が来て測定の結果を問われ、個人差があるが〇・五度から、約一度までの温度上昇があるといったら、『夏場の運転、温度上昇に注意』とでかど出ていた。新聞記者は必ずしも発言者の意図することを書かないということを実感した。」

⑲「ブルーバードの中古を買ったが、マフラーが外れてガラガラ音を立てた。とりあえずひもでマフラーをつつて音が激しく整備不良で捕まっては困るので、ダンプカーのあとをついて走った。」

⑳「彗星号、蒼竜号は国有だったから、所有者＝文部大臣、使用者＝工大学長だった。「たナンバー（官公庁用）で堂々と白トラック（営業ナンバーでない違法運送）をやっていた。ついでながら検査証の発行者は運輸大臣だったような気がする。」

九州地区OB会パートⅡ

平成十年八月の九州地区OB会はおもに昭和三十五年以前卒業のOBが集まった。パートⅡでは比較的若いOBや、部長経験者、更に現役の部員などに集まってもらおうと企画したが、編集部の手違いで学期末試験の時期と重なり現役部員の参加は得られなかった。

平成十一年三月四日北九州市小倉北区の「紅林」での座談会には藤原、大西、両部長経験の先生と三十六年以後の卒業のOBのほか、喜多村OB会会長と真那子、斉藤両OBには再度参加をいただいた。

参加者は次の通り。(敬称略)

藤原 (元部長)、大西 (元部長)、喜多村 (21)、真那子 (24)、
斉藤 (33)、宮原 (38)、伊東 (44)、藤田 (44)、坂本 (45)、

地区外参加 嘉村 (33)



H11.3 北九州市小倉北区にて

座談会記録

①終戦直前、二トントラックでも十五トンくらい無理して積んでのろろ運転ながら運んだこともあった。
②車庫が鉄筋になったのは昭和四十四年頃だったと思う。最初はシャッターがなくて「九州工大自動車部」と大きな文字の入った部車が盗まれ、その後やっとシャッターが付けられた。

③部車は、日産ジュニアだったが、いすゞからエルフを寄贈され随分活躍した。

④ ラリーのナビをしたとき、当時卓上計算機もないときで手回しの機械式計算機を必死で廻し手首や腕が痛くなり
腱鞘炎けんしやうえんになった。

⑤ ラリーも最初は昼間でも出来たが、車が増えて交通状況から夜しかできなくなった。ラリーがだんだんナイトラリー
かフィギア、ダート競技になっていった。

⑥ 自動車部も比較的人気があつて六十名からの入部希望者を試験をして三十名までに絞ったこともあつた。(昭和四
十年代前半)

⑦ 部車が、学校の所有でなくなつてから、部長は、学内の官舎住まいでないとつとまらなくなった。

⑧ 自動車部があるため、学校の敷地内に廃車の自動車が增える一方で、学校や、他の部から苦情がたえなかった。

⑨ 部長はラリーの開会式の挨拶とコンパに顔を出すことくらいが主な仕事であつた。

⑩ 部誌「流星」を発行したときはなかなか原稿が集まらなくて苦労した。

現役部員の抱える悩み

自動車部が創設されて今年は五十八周年を迎える。自動車が貴重品、自動車運転免許所持者はVIPなみという創部当時とは違い、自動車も一家に二台、三台という時代のなかでは、自動車部の運営が如何に困難かは容易に想像が付く。また、九州地区パートIIの座談会の中で部長経験の先生方が触れておられたように、部車の維持管理、所有者責任が今後どのようになされるかも大きな問題点であろう。OB会も自動車部の存続に重大な関心を寄せる必要があるのではないだろうか。

次の座談会語録は、現役の自動車部幹部から部史編纂の担当者あて送られた「紙上座談会」報告である。

テーマ 自動車部運営の苦勞、問題

平成十一年度自動車部幹事

部費Ⅱ（活動資金の不足）の問題

- ☆ 今年十二月に車庫移転のために新しく部内の備品等の買いそろえが必要となり、部費を使用したため。
- ☆ 毎年、前期、後期におさめる部費をおさめていない部員がいるため。
- ☆ 卒業された先輩方の残していた車や部員がどこからか持つてくる廃車の処理に結構大きな額が必要なため。
- ☆ 部車であるエルフの維持に毎年二十万円ちかくの経費がかかるため。
- ☆ 今年で三十七回を迎える *KIT Night Rally* は近年の学生ラリー人口の減少で、赤字が出ることが多くなつた。

部車Ⅱ（EP71）の問題

- ☆ 老朽化と破損（あるOBが壊した）のために、全九出場など結果の残せる競技ができなくなった。（大学から、個人で出る競技でなく、九工大として競技に出場し、ある程度結果を残せるよう要求がでてきた。）
- ☆ 部車の修理等、作業をしてゆくにも、使いものにならなくなったパーツ類の購入まで、資金がまわらず、また、部員のやる気の問題もあり、なかなか一致団結してやれない。理想と現実のギャップに悩む。

活動姿勢の問題

- ☆ 活動時間に決まりがないためか、どうも最近だらだらしがちである。

☆ ここ近年、競技に参加することが少なくなり、四、五年前の先輩方のように気合いを入れて競技活動をしなくなってきた。

部員減少の問題

☆ 勧誘活動をしたにもかかわらず、年々部員の減少傾向にあり、このままでは後輩達が幹部になったとき部の運営が心配であること。

☆ 新入部員から見た部の活動は良くわからないらしい。これが入部する部員の減少にも関係していると考えられる。これをいかに改善してゆくかが今後の課題となるだろう。

☆ 部の学内での活動は車の作業くらいしかできないため、見学だけでは部の活動を見せるのが難しいと思われる。

部室について

☆ 現在の自動車部は部室をもたないため、(移転後のガレージにもない予定)今回嘉村先輩にいわれ、ここ十数年ラリーやジムカーナ等の様々な資料やこまかいリザルトを探してみると紛失してしまっているものが多く、資料をしっかり管理して行くことが今後の急務である。

〈主将から一言〉

活動には個人差があるが、みんなそれぞれ目的意識をもって、活動をしてほしい。現在の幹部は先輩方の時に比べまとまりがなく、自分勝手な活動、考えが多すぎる。自分も主将として、他の幹部及び部員をうまくまとめて良い手本になりたい。

〈先輩から一言〉

積極的に自分の車をいじって車の構造を理解せよ。部車をつくるのはいいが、具体的にどうしたらいいかを明確にせよ。さらに、自動車そのものの未来を開拓するぐらいの気構えをもって欲しい。

― 特別寄稿 ―

自動車部の顧問になつて

九州工大工学部

自動車部顧問 西川

教授

平成十一年四月より前任の加藤 先生の後を継いで自動車部の顧問を引き受けました。

自動車は元来の機械の代表的存在ですし、自動車部の部員も殆どが機械教室の学生で占められている現状からも妥当な処かなと考え引き受けた次第です。

私自身は、企業を退職后、本学のお世話になり現在二年半経ったところですし、大学流の言い方では三回生ということになりますので未だ新米かも知れませんが、大学の雰囲気、カルチャーにもやっと慣れて来たと言えます。大学での担当は熱力学、伝熱学、熱エネルギー機器等です。

勤めておりました企業は機械メーカーで自動車を生産していた訳ではありませんが、関連会社で自動車会社がありましたので、新しい情報も比較的入って来た方でしょう。

扱て、四月に顧問になった直後に自動車部のコンパに招かれて部員諸君との顔合わせを致しました。少々のバンカラさに加えて素朴な真面目さを持つているというのが率直な感想でした。

明治専門学校時代以来の責善会の伝統、雰囲気的一端に触れた思いがしました。

ところでこの九州の地に参りましたのは、初めてのことですが、九州の学生諸君は荒っぽい豪傑タイプが多いものと思っておりますが、かなり私のイメージとは異なっております。

意外と言いますか、おとなしくて無口なタイプが多いという印象です。東京近辺の私学生の口八丁手八丁という感じと異なり、昔の日本人の良さを残したタイプかなと感じた次第です。

日本の自動車産業も、我々の学生時代に比較して技術的にも産業規模から言っても、圧倒的に進歩すると共に巨大な存在となり、世界のトップランナーになっております。又、F-1、世界ラリー選手権での日本車の活躍が報じられ、これらからも若い人々の興味をより一層、自動車とへ駆り立てて、自動車部、同好会等の活動も、非常に活発になっていると言えるでしょう。

学生時代にクラブ活動に打込むことは有意義であり結構なことと思いますが、唯、打込み過ぎて、本来の学問がおろそかになる様な事態に陥らないようにして頂きたい。それだけ自動車は興味を引く存在でしょうが、本末転倒になつては意味をなさなくなります。

もう一つお願いしたいことは、愛すべき部員諸君は、安全にはくれぐれも配慮して悔いの内容にして頂き度いということです。他のクラブに比して危険性の高い方だと思いますが、充分注意してエンジョイして頂き度いものです。

母校の自動車部のこれからと

OB会としてのかかわりかた

現役部員の紙上座談会、九州での元部長先生を交えた九州OB会パートⅡ、そして新しく顧問(部長)になられた西川先生のご寄稿文にもあるように、自動車部が今大きな転機にあることは間違いないようだ。

現役部員の諸君は活動の目標がなかなか見えにくい状態にあり、対外試合に「チーム」として良い成績をおさめようとして

も練習に必要な時間と経費がネックになっているし、整備などに力を入れたくても自動車自体が電子部品化し、足回りやボデー以外にはスパナやレンチの使いようがない状態で、聞こえてくるのは現状への不満と、自己反省ばかりである。かつての先輩たちが工学部の自動車部として何ができるか、何をすべきかを考えて部活動に励んだように現役のみなさんもそろそろ真剣に考えるときではないだろうか。

例えば、ソーラーカー、ハイブリットカー、自動運転システムなど九州工大の各部、各科の知恵を集めて何かの目標にそれを結集するということはむりな相談ではないと思うが、いかがであろう。

明専に始まった「九州工大責善会自動車部」はもうすぐ六十年を迎えようとしている。いま伝統ある自動車部が廃部になったり、同好会に格下げになったりという危険性をOBとしても座視するわけにはいかない。

OB会が再び活動を始めたのを機に、各地のOB会でこの点を話し合い、全国規模の会が持てればその席でOB会が何をなすべきか、何ができるかを論議し合うことができればたいへん結構なことだと思う。

とくに、OB会を継続発展させるための提案というか、編集者の夢でもあるが、まず、目下休刊状態の冊子「流星」をOB会機関誌として再スタートさせる。年会費五〇〇円でも企業広告を掲載すれば年、二回は発行できるはずだ。

もうひとつの夢は、創部六十年を記念して来る平成十三年（二〇〇一年）、OB会全国大会を阿蘇山中「長陽山荘」で開たい。博多まで新幹線、熊本まで空路、各ターミナルに貸し切りバスを用意して阿蘇へ向かう。総会、宴会の後は卒業年次の近いもの同士がそれぞれの部屋で昔話をしあうもよし。もちろん大先輩の部屋へ出むいて話して耳を傾けるもよし、翌朝は時間の許す組はゴルフコンペ、観光地遊覧、その他色々な過ごし方もあろう。

巻末のOB会会則は昭和四十二年一月、第一回OB会で承認されたという部誌「流星」第二号から、本部の所在地、会費など一部手直しして「会則案」として掲載した。

さいごに、今後OB会がますます発展し、お互いに末永いお付き合いができることを心から願うものである。

年譜

年	事	項	部車・OB会	国産乗用車デビュー時期
昭和 六〇一六	島村先生を中心に 有志の自動車同好会が活躍整備、 運転を体得		フォード四気筒 (後の黒竜号)	
一六	二月、責善会は責善報国団と改称 国防部に自動車班設立 のちの「明専・九工大責善会自動車部」のときスタート フォード四気筒にガス発生炉装着			
一七	九軌合同バス(西鉄の前身)より廃車のバス寄贈 フォード四気筒で運転練習		シボレーバス六気筒 (後の流星号)	
一八	学徒戦時動員がはじまる ほそぼそと整備、運転の練習			
一九	シボレー六気筒が加わり部車三台となったので名前を付ける 機甲班と改称 福岡市に国防訓練場できる 飛行場整備などトラッ クでの活動が時々あり運転免許合格者が増える		シボレー六気筒 蒼龍号	
二〇	終戦 軍用トラック(彗星号)部所属になる		トヨタ二トン車 彗星号	
二一	彗星号 買出しなどに活躍 寮生の食糧事情まだ良くならない			
二二	トラックでのアルバイトや寮の石炭、食糧の運搬さかん 蒼龍号 機械科の所属に変更			
二三	黒龍号 リアシャフトたびたび折損 ついに廃車 彗星号 運転台大破し 鋼製キャビネットへ			
二四	九州工業大学発足 責善会残置問題が起きるが存続決定			
二五	彗星号 車検の期限がだんだん短くなる 引越などのアルバイトも増える			
二六	荷台が傷んだので丸太からの製材で荷台作り替え			トヨベットSE、ダットサ ンDA

二七	選挙の応援を頼まれるがすぐ中止 ガソリンがわずかながら現金で買えるようになる 学長車の運転手が休みの時は自動車部員が代行運転 彗星号のエンジンがピストンオーバーサイズ・〇六よりも大きく なったのでSIPでホーニングしスリーブを入れる 試運転と称して耶馬溪まで遠征（彗星、蒼竜）
二八	志賀島まで遠征（彗星、蒼竜）
二九	三月 第一回九州一周遠征（トヨタBX二台、一八名）
三〇	一二月 クリスマスパーティ（部室にて）
三一	三月、第二回九州一周遠征（クラウン、トヨエース、三菱ジープ）
三二	五月、西日本学生自動車連盟結成、八月、第一回学生ラリー（R） 十一月、五〇周年記念行事として、国産自動車展示会開催 第一回西日本学生自動車運転競技会
三四	四月、九州一周（性能試験）遠征（彗星、青馬車、トヨエース 一〇名）五月、長崎〜東京スクーターRに熊大と連合チームで参 加（三位）八月、全日本学生連・九州一周R（二位）第六回ジープ エコラン一〇月、第一回九州学生自動車運転競技会（九 学運転競技会）一二月朝日新聞主催 施設訪問「愛の募金」に参加
三五	三月、流星、蒼竜スクラップ化 嘉村OBの発起で流星号送別式 二〇数名参加、OB会の話が起きるが以後発展なし 四月、西日本一周遠征（五台、一七名）五月、第二回九州一周R二 位 六月、日本一周R一〇位 六月、第二回九学運転会（四位） 十一月、工大祭行事として国産自動車展示会第一技八回全日本学生
三六	流星、彗星蒼竜と共にス クラップ処分 三月、流星号お別れ会（戸 畑） クラウン50貸与
	銀河、青馬車（トヨベツト） マーキュリー 流星、蒼竜廃車 トヨエース購入 クラウン50貸与 トーハツ単車
	ダットサンDC3 プリンスセダン 日野ルノー、日産オースチン トヨベツト・スーパ トヨベツトクラウン、マスター ダットサン110 コロナ、プリンススカイライ ン、ダイハツミゼット スバル360、スズライト プリンスグロリア、日産ブル ード、三菱500 セドリック、マツダR360 クーペ 日野コンテッサ900、パプ リカ、バレル

三七 自動車運転競技会、一六位 一二月、第一回福岡五大学ナイトR 四月、九州一周遠征（五台、二〇名）、施設の子招待愛のドライブ、 献血運動参加 五月、第三回九州一周R三位 北海層一周R一七位 十一月、第三回九学運競技会 一二月、五大ナイトR二位 第一回福岡五大学フイギアレースⅡ以下福五第F（二位）	ビュイック 日産ダンブカー寄贈 クラウン80 三菱500 マスターライン寄贈 マツダキヤロル、鈴木フロ ンテ、スカイライン、コルト6 00、フェアレディ、三菱ミ ニカ いすゞベレット、コルト10 00、マツダファミリア8000
三八 三月、中国南紀遠征 四月、第四回九州一周学生R（三位） 五月、愛のドライブ、献血運動協力 六月、第一回学内ラリー （その後KITナイトRとして発展）七月、東京、鹿児島ノンスト ップR（参加記念に三菱五〇〇を受領）第一三回九州インカレ佐大、 第一回自動車競技 一二月、第四回九学運競技会（二位）第二〇回 全日本学運競技会（一八位）第二回福五大F	ニッサンジュニア購入 ダイハツベルリーナ 本田S 600、三菱デボネア、 日産シルビア、コルト1500 スバル1000
三九 三月、北陸中部遠征 四月、愛のドライブ、献血運動協力 第一四回インカレ宮大、第二回自動車競技二位 九月、OBからの 資金カンパで日産ジュニア購入 一二月、三菱五〇〇事故で年末ま での対外試合出場辞退 大阪で川崎氏他四名OB会食	ベレル64 部車へ クラウン三台、ジュニア 以外は練習車（Noなし） 一二月、OB会関西支部 発会（大阪） シボレーS4（練習用） クラウン80貸与 セドリック80購入 一月、第一回OB会総会 （戸畑） ホンダS800、日産サニ ー、マツダルーチェ、いすゞフロ ーリアント、トヨタカローラ ダイハツフェロー ホンダN360
四〇 三月、中部関東遠征 四月、第六回九州地区R七位 愛のドライブ、 献血運動協力 六月、ベレル62、64、購入 七月、第一五回九州 インカレ（於九工大）第三回自動車競技、失格 九月第四回五大F（八、九位）ベレル62売却 一〇月、自動車部ユニホームを全員誂える 第六回九学運競技会	三月、中四国遠征（三台 二五名） 四月、愛のドライブ・甘木 六月、全九F（フイギア）新人戦 七月、全日学R（九位） 全九インカレ・佐賀 一〇月、福五大F定期戦 一二月、第六回工 大R（九工大B優勝）一二月、福五大NR（工大B三位） 関西でOB会発足
四二 一月、OB会結成（第一回OB会総会）規約承認 三月、中国南紀 遠征（四台 一八名） 四月、愛のドライブ 全九F新人戦 全九 R兼全日予選 西南R 全九インカレ 福五大F定期戦 九学連選	ホンダN360

四三	転競技会兼全日予選 第七回工大R 福五大NR 三月、中国、北陸遠征(四台 一九名) 四月、愛のドライブ 全九F新人戦 全九R兼全日予選 西南R 全九インカレ 福五大F定期戦 九学連運転競技会兼全日予選 第八回工大R 福五大NR クラウン購入	貸与車クラウンの購入	日産ローレル、マツダファミ リアロータリークーペ コロナマークII
四四	関東中部遠征(五台 二四名) 全九F新人戦 全九R兼全日予選 西南R 全九インカレ 福五大F定期戦 九学連運転競技会兼全日予選 全日R(北海装) 第九回工大R 山口R 福五大NR	エルフの購入 車庫移転シャッター付木 造車庫になる	スバルFF1、フェアレディ Zルーチエロータリー、三菱 ギャラン、日産チェリー、ホ ンダバモス、セリカ、カリ ナ、
四五	九州一周遠征(四台 一九名) 活動記録なし	コルト11FS購入	マツダカペラ
四六	近畿山陰(四台 一五名) 活動記録なし		スバルレオーネ、ホンダライ フ
四七	東北遠征(四台) 第一回スカベンジャーR 第一〇回KITNR (七〇台参加) 全九F新人戦 全九インカレ 全九F選手権 福五大NR(Bチーム四位) セドリック(キ35進藤牧人氏寄贈)		ホンダシビック 145ク ー
四八	三月、南紀遠征(四台 一六名) 四月、全九R(二位) スカベン R 五月、全九F新人戦 七月、全九インカレ(鹿児島) 一〇月、福五大NR 十一月、KITNR	エルフ250購入	日産バイオレット、トヨタス ターレット、いすゞジェミニ
四九	三月、九州一周遠征(五台 二〇名) 四月第四回全九整備技術選手 権(四位)、五月、全九F新人戦 六月、エルフNSO部車購入 全九 F選手権(小型貨物四位)		
五〇	北陸遠征(四台 一七名) 第五回全九整備選手権 第一〇会全九 F新人戦 全九F選手権 全九インカレ(Aチーム優勝)	ジェミニの部費、及び OBの寄付で購入	
五一	四国、山陰遠征(七台 二七名) 第一一回全九F新人戦(個人三位)		ホンダアコード

五二	全九F選手権 全九インカレ 山陰南紀遠征(九台 三六名) 第一八回全九F選手権 全九F新人戦(個人戦一位)	日産オースター/スタンザ、
五三	三月、九州一周遠征(九台 三四名) 四月、全九新人戦 六月、全九F選手権 七月全九学R 全日学整備大会(名古屋)	三菱ミラージュ、ホンダブレ リュード、マツダサバンナ トヨタターセル/コルサ
五四	三月、中国東海遠征(八台 三二名) 四月、全九F新人戦(個人 戦一位) 六月、全九F選手権 七月全九学R 全日学整備大会	スズキアルト、トヨタRVハ イラックス、
五五	三月、九州一周遠征(九台 三二名) 五月、全九F新人戦 第二二 回全九F選手権 七月、第三〇回インカレF 第一九回全九学生R (Aチーム四位) 全日学整備大会(名古屋)	セリカカムリ/クレスト/ブ レザード、日産サハリ/レパ ード、ホンダバラード
五六	三月、九州一周遠征(七台 二九名) 五月、第一六回全九F新人 戦 六月、全九F選手権(Bチーム三位) 七月、全九学生R 八月、第三一回インカレR 八月、全日学整備大会(東京)	ソアラ、イスズビアッツア 日産スタンザ、ホンダシテイ
五七	三月、中国地方遠征(七台 二六名) 五月、第一七回全九F新人戦 六月、第二三回全九F選手権 八月、第二一回全九学生R 第三二回インカレR 全日学整備大会(名古屋)	三菱トレディア/コルディア パジェロ、日産プल्लीー トヨタヒスタ/カムリ/カリブ
五八	三月、瀬戸内一周遠征(四台 一三名) 五月、第一八回全九F新人戦 六月、第二四回全九F選手権 七月、第三三回インカレF 八月、第二二回全九学生R(Bチーム優勝)	三菱シャリオ、いすゞフロ リアン/アスカ、スバルドミ ング
五九	三月、九州一周遠征(五台 一三名) 五月、第一九回全九F新人戦 六月、第二五回全九F選手権 七月、第三四回インカレR(佐賀大) (Aチーム四位) 八月、第二三回全九学生R 全日学整備大会(名 古屋) 全九D(ダートラ)(オープン参加一位)	トヨタMR―2
六〇	三月、中国遠征(六台 二九名) 五月、第二〇回全九F新人戦(四位)	いすゞFFジェミニ

平成一	六三	六一	平成一	平成一	平成一
六月、第二六回全九F選手権(四位) 第三五回インカレダート(D) 8Aチーム四位) 全九学生R(Bチーム二位、Aチーム三位)	三月、四国遠征(八台 三三名) 四月、全九D(三位) 五月全九F新人戦 インカレR(Aチーム二位) 七月、全九F選手権 一〇月、全九D(二位)	三月、九州一周遠征(六台 二三名) 五月、全九F新人戦(二位) 六月、全九F(全日予選) 八月、第二五回全九学R(一位) 一〇月、全九D(三位)	三月、中国一周遠征 四月、第一回全九学ジムカーナ(三位) 八月、第二六回全九学R(一位)	三月、山陰近畿遠征(五台 二三名) 四月、第九回全九D 六月、全九F新人戦(三位) 七月、第二回全九学ジムカーナ 七月、全九学生R	三月、九州一周遠征(四台 一九名) 四月、第三回全九学D(三位) 全九F新人戦 八月、第二九回全九学生R(三位) インカレ 活動記録なし
平成二	平成四	平成五	平成二	平成四	平成五
トヨタスーブラ、	マツダエチユード スバルアルシオーネ	スズキエスクード、マツダペ ルソナ、ホンダコンチエルト 日産セフィーロ	ホンダアスコット、スバルレ ガシイ、日産バオ/カーゴ ダイハツアプローズ、トヨタ セルシオ	日産プリメラ/プリセラ、ト ヨタセラ/エスティマ、ホン ダNSX、三菱GYO	トヨタサイノス/セブター/ カルディナ、日産フィガロ、 三菱RVR、マツダセンティ ア、ユーノスプレッツォ ホンダビート/イノーバ、三 菱エメロード 日産ラルゴ、スズキワゴンR
門司グループOB会(東 京)?	門司グループOB会(東 京)	門司グループOB会(東 京)	門司グループOB会(東 京)	門司グループOB会(東 京)	門司グループOB会(東 京)

平成六	〃				
平成七	〃				
平成八	四月、全日本R選手権・ACK Sp.OF (オフィシャル) 参加 六月、JAF九州R・ACK June OF 参加 十一月、KIT NR JMRC・JS (ジュニアシリーズ) D個人 (一位・同二位)・				
平成九	三月、 四月、全日本R選手権・ACK Sp.OF 参加 五月、JMRC・R JSR 六月、JAF九州R・ACK June OF 参加 七月、H地 区CS (チャンピオン・シリーズ) 第八戦 Rascal ジムカーナ'97 JMRC・JSR (三位) 一〇月、JMRC九州R・CS 第六戦 (三 位)、十一月、KIT・NR				
一〇	三月、 四月、全日本R選手権・ACK Sp.OF 参加 JMRC九州ジムカ ーナCS 第四戦 <i>Time attack in 三井</i> (A1・四位) 五月、JMRC 九州R・CS 第二戦 六月、JAF九州R・ACK June OF 参 加 アドバンGABカップWジムカーナ'98 JMRC九州ジムカ ーナCS 第六戦 JMRC九州R・CS 第三戦 七月、JMRC九 州ジムカーナ・CS 第七戦 Rascal ジムカーナ'98 JMRC・R・ JCS 第三戦 (ナビ部門優勝) 八月、JMRC九州ジムカーナ・ CS 第九戦 <i>Cr.Md.</i> (一位) JMRC・R/CS 第四戦 <i>Acti Summer Attack '98</i> JMRC・R・JCS 第四戦 (ナビ部門優勝) 九月、JMRC九州ジムカーナ・CS 第一〇戦 <i>Tobume fies</i> (四位) 十一月、KIT NR JMRC・R・JCS 第六戦 (ナビ部門優勝)				
一一		一月、門司・川崎グルー ブOB会 (東京第一回O B会) 五月、第一回九州一周の メンバーによるOB会 (岡山・姫路) 四月、東京地区座談会 (東 京) 六月、中京地区OB会 (名 古屋) 一〇月、九州地区OB会 パート1 (福岡) 十一月、関西地区OB会 (大阪) 二月、東京地区OB会 (東 京) 三月、九州地区OB 会パート2 (北九州)	ホンダラファアーガ 日産ルキノ、トヨタカレン スズキカルタスクレセント、 ホンダCR-V トヨタメガクルーザー/イプ サム/電気自動車、ダイハツ ミゼットII、マツダデミオ、 日産ステージア トヨタスバシオ/ラウム/ハ イブリットカープリウス、日 産セフィーロ、ホンダキャパ ダイハツテリオス、トヨタガ イヤ/ナディア トヨタヴィッツ、マツダプレ マシー		

学 歌（校歌）

西条八十 作詞

堀内敏三 作曲

一、汪洋湛^{たふ}う玄海^{こんかい}の 深きに優る智を探り

曙^{しやう}きよき檣山^{しょうざん}の 嵩き理想を仰ぎつつ

こゝ鎮西に砦^{とりで}して 輝く歴史幾星霜

燦^{かがや}かし 我等の歴史

讃えよ あゝ光栄^{はえ}えある母校

二、科学の斧^{きんがく}の一閃^{せん}に 自然の神秘打ち碎き

救世^{くせい}の業^{わざ}を現^{あらわ}すべき 希望は燃ゆる溶鉱炉

巨人の愛の学窓^{がくそう}に 若き学徒の意気高し

燦^{かがや}かし 我等の歴史

讃えよ あゝ光栄^{はえ}えある母校

三、友は集まり散ずれど 蒼穹燃ゆる北筑に

築く文化の金字塔 不滅の誓い頼もしや

いでや進まん天翔る 鳳龍の旗かざしつつ

燦^{かがや}かし 我等の歴史

讃えよ あゝ光栄^{はえ}えある母校

昭和8年5月27日制定

緑の森

井上吉之 作詞
藤井清水 作曲

緑の森

井上吉之 作詞
藤井清水 作曲

一、緑の森の自治の丘 自治の燈のあかくして
角笛高く口誦せば 棘の道に彷徨へる
羊の群は従へり 若き笛子に微笑あり

二、若き身なるを若き日の 誇を共に歌はばや
四年の丘の我春は 永久の生命の糧なるを
夢にしありと言はば言へ 歌聲つきず自治の城

三、四寮の窓に吹きならす 笛の高音のひとすちに
ひびく心は憧憬の 自治の女神の養ひし
高き理想の森影に 十年の春を迎えけり

四、同じ運命をこの森に 君とし我は見出しぬ
君よ朗らかに歌へかし 琴弾く技は知らねども
胸の血潮を汲み交し 自治燈の下に酔はんかな

五、夜は寂莫の森なれば 六連の光かすかにて
かたみに理想語り合ふ 若き愁ひを知るや君
たかき使命と希望とに あ、胸の血のたぎるなり

六、胸の血たぎるこの宵は 十年の記念祭宴延
盃あげてさらば君 久遠の緑変りなく
東亜に光るこの森を 混濁の世に誇らん

(大正八年作)

中原酔歌

綿貫昭二 作詞・作曲

中原酔歌

綿貫昭二 作詞
綿貫昭二 作曲

一、あゝ玄海に波猛り 皓雲乱れ飛ぶところ

松籟どどと奏すれば 誰か壮歌に酔わざらん

二、月朧々と影映し 玉花古沼に舞い散れば

そらろ木蔭にさすらいて 誰か古吟に酔わざらん

三、蟬韻宵にかくるれば 螢灯闇に浮び来ぬ

銀河が下に手枕の 誰か芳夢に酔わざらん

四、それ寂寥の秋なれば 秋露に袖をひたしつゝ、

やさしき人が手をとって 誰か情に酔わざらん

五、雁遠く去り行けば 中原頭に冬来たり

白鱗霏々と散り敷けば 誰か興趣に酔わざらん

六、されば尚志の春駒よ 濁世の塵を震えては

こゝ桃源に円居して いでや緑酒に酔わんかな

(昭和二十年作)

「中原酔歌」が生まれましたのは、昭和二十年終戦の年であります。戦局の動向も何ひとつわからず、單純に最後の勝利を信じて、毎日平炉の前で汗を流していた私にとつて降ってわいたような終戦は、言いようもない虚脱感をもたらしました。しかし日がたつにつれ、村の静かな山野に囲まれた生活の中で、よみがえった平和への喜びが次第にわいてきました。新しい寮歌を造ろうと思いたったのはこの頃であります。明専には「緑の森」をはじめとするすばらしい寮歌があり、私達寮生は、ストームにコンパにこれらの歌を高唱しては青春の血をわき立たせ、お互いの連帯感を育んでまいりました。しかしながら、当時の寮歌の中にはいわゆる逍遙歌といったムードの曲がありませんでした。ようやく平和がおとずれた学園、もう二度と空襲警報の鳴らない宵闇のキャンパスで、寮生たちが下駄をうちながら逍遙しながら、静かに口ずさむことのできる歌をつくってみたいとおもいました。

(22) 綿貫

アンケート集計結果 (1) 自動車部先輩あて

アンケート発送数 296通 住所不明、転居先不明で返送されたもの 22通
回答数 51通 回答率 18.6%

卒業年次	数	卒業年次	数	卒業年次	数
昭和20年	1	35	1	57	2
22	2	36	1	58	1
23	3	37	2	62	2
24	1	38	3	63	4
25	4	40	1	H1	1
26	3	41	1	H2	1
28	2	44	1	H3	1
29	2	52	1	H4	2
31	1	55	2	H5	1
32	1	56	1	H8	1

1. 入部の動機(複数回答)

- ①自動車に興味があった 35(68.6%) ②他の部に比べ新鮮味があった 5(9.8%)
③将来プラスになるとおもった 7(13.7%) ④運転免許を取得するのに有利だと思った 10(19.6%) ⑤専攻した学科と関係があると思った 4(7.8%)
⑥その他 3 (5.8%) 入部勧誘、デモ、2万円で免許が・・

2. 自動車部に在籍したことがその後の人生や日常生活にプラス、マイナス?

- ①授業に差し障りがあった 2(1.9%) ②プラスもマイナスもない 1(1.9%)
③どちらかといえばプラス 20(39.2%) ④たいへんプラス 29(56.8%)

6. 幹事を経験しましたか

- ①いいえ 24(47.0%) ②はい 27(52.9%)

7. 部活は熱心でしたか①いいえ 9(17.6%) ②はい 40(78.4%) ③ふつう 2(3.9%)

9. 在学中に他の責善会に籍を置きましたか①いいえ 41(66.81%)

- ②はい 10(19.6%) コーラス2、写真、サッカー、登山
テニス、空手、詩吟、グライダー

10. マイカーを所有していますか

- ①いいえ 3(5.8%) ②はい トヨタ 18(35.3%) 日産 11(21.5%) 三菱 7(13.7%)
いすゞ 3(5.8%) ホンダ 3(5.8%) 富士重 2(3.9%)
ベンツ 1 BMW 1(1.9%) ワーゲン 1(1.9%)

種類 ①大衆車 27(52.9%) ②RV 8(15.6%) ③高級車 10(19.6%) ④特殊車 6(11.7%)

11. 平均使用年数

- ①3年未満 10(19.6%) ②4~6年 8(15.6%) ③7~8年 11(21.5%) ④10年前後 13(25.5%) ⑤12年以上 2(3.9%)

12. 普通免許は教習所で取得しましたか

- ①いいえ 40(78.4%) ②はい 10(19.6%)

アンケート集計結果（２）機械科卒業の先輩あて

アンケート発送数 206通 住所不明、転居先不明で返送されたもの 18通
 回答数 51通 回答率 27.1%

卒業年次	数	卒業年次	数	卒業年次	数
キ5	2名	キ13	4名	キ17	6名
キ6	1名	キ14	3名	キ18	10名
キ7	2名	キ15	3名	キ19	4名
キ8	1名	キ16	3名	キ20	7名
キ12	2名	キ16-2	3名		

1. 自動車部、同好会があることをいつ知りましたか

- ①入校まもなく 20(39.2%) ②2年 10(19.6%) 3年 2(3.9%) 4年 3 (5.9%)
 ③卒業まで知らなかった 9 (17.6%)

2. 自動車部か同好会に一度はかかわりましたか

- ①はい 12(23.5%) ②いいえ 25(49.0%)

3. 当時の部長教官はどなたでしたか

4. なんの講座を教えておられましたか

5. 運転にはどんな車を使ってましたか

(回答略)

この後の設問は年代によって御存知ない方もおおいので「はい」回答の数のみ記載する。

6. その車で学校の外へ出たことがありますか

- ①はい 2

7. 整備の教材にはどんな車を使っていましたか (回答略)

8. 責善会が報国団に改称されたことを御存知でしたか

- ①はい 11

9. それは昭和16年2月と記録にありますが正しいと思いますか

- ①はい 10

10. 当時、機甲班（自動車班）は一年でも入れましたか

- ①はい 6

11. 当時、機甲班（自動車班）は機械科以外でも入れましたか

- ①はい 6

12. 県内のバス会社から中古のバスをもらって練習したそうですが見たことがありますか

- ①はい 13

13. ガス発生炉がついていましたか

- ①はい 9

14. 乗ったこと（押したこと）がありますか

- ①はい 3

15. シボレーのシャシーを修理して動かしましたそうですが見たことや押したことがありますか

- ①はい 5

自動車部OB会役員名簿

自動車部OB会名簿 関東地区

自動車部OB会名簿 中京地区

九州工業大学責善会自動車部OB会会則(案)

第一章 総則

第一条

本会は九州工業大学責善会自動車部OB会と称し本部を会長宅に置く。

第二条

本会は同部OBを主体とし、会員相互の扶助親睦を図るとともに、同部の発展に寄与することを目的とする。

第三条

本会は前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- ① 会員総会 ② 支部会 ③ 現役員との交歓会

- ④ 同部への援助 ⑤ その他

第四条

本会は次の会員をもつて構成する。

- ① 通常会員 自動車部OB ② 特別会員 部長、顧問、参与で入部を希望するもの ③ 賛助会員 同部に協力するもので、会員総会によって推薦されたもの。

第二章 役員

第五条

本会は次の役員を置く。

- ① 会長 一名 ② 副会長 若干名 ③ 幹事(常任幹事一名を含み若干名) ④ 会計一名(副会長兼任も可)

- ⑤ 顧問 若干名

第六条

前条の役員は、会員中より総会に於いて選出する。

第七条

会長は本会を代表総括し、かつ会務を総括し、副会長は会長を補佐し、会長不在の際にはその職務を代行する。

- 2 幹事は予算決算の審議執行する。

第八条

右記役員の任期は二年とする。但し重任、兼任を妨げない。

第三章 会 合

第九条

本会の会議は総会・支部会・役員会の三種とし、会議の議決はすべて出席者(委任出席を含む)の過半数をもつてする。

第一〇条

会員総会は、本会最高の議決機関でもあり会長がこれを召集する。

- ① 定例総会(年一回) ② 会員の五分の一以上の要求があつたとき。 ③ 会長が必要と認めたとき。

第四章 会 計

第十一条

本会の経費は会費及び寄付金をもつてこれにあてる。

第十二条

会費は一年五〇〇円として三年分を前納する。

第十三条

本会の会計年度は一月一日に始め、同年の十二月三

十一日に終了する。

第五章 支部

第十四条

本会は支部を九州、関東・中京・関西・中四国に設置する。
その他の地区の支部は本会に届けて設置することができる。

第十五条

支部における細則は、支部によつてそれぞれ定めることとする。支部長は幹事を兼任しても良い。

第六条 細則

第十六条

本会会則の改正は会員総数の二分の二以上の賛成を必要とする。

第十七条

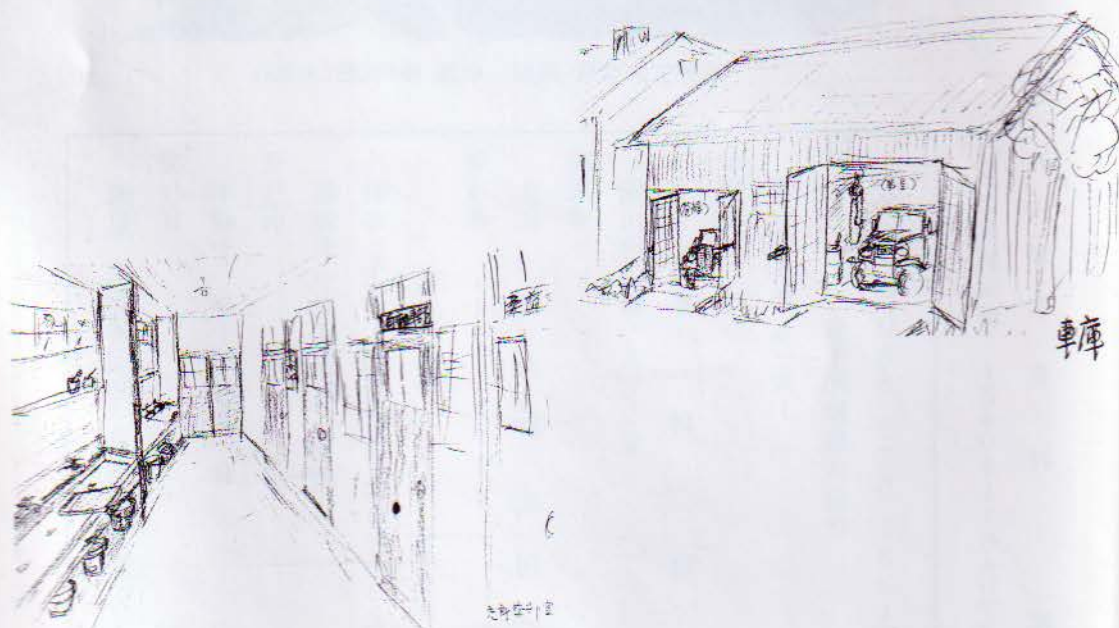
会員は職業、住所、氏名に変更があつたときは直ちに本部に連絡しなければならない。

第十八条

本会は一年に一回ないし二回、会報「流星」を発行する。

第十九条

本会会則は昭和四十一年一月二十六日より有効とする。





九州工大全景 撮影 中原 OB(39)

流星 記念特別号「自動車部部史」

発行日

平成十一年十一月十一日

発行所

明専・九州工大責善会自動車部OB会

発行者

会長 喜多村

編集者

嘉村

印刷所

富士印刷株式会社

